

〈特集1〉

防災 減災 2024

#自らの身は自ら守る

岡谷市では、災害に備え「自助」「互助」「共助」「公助」を基本とした取り組みをしていますが、突発的に発生する激甚な災害に対しては、住民のみなさんが「自らの身は自ら守る」意識を持って自らの判断で避難行動をし、行政はそれを全力で支援するという、防災意識の高い社会をつくる必要があります。このために、市民・事業者および市で連携・協力し「地域の防災力・減災力」の強化に取り組んでいきましょう。

市民の
みなさん
のお願い

- ご近所同士の助け合いや、地域の支え合いを大切にしましょう。
- 大切な命を守るために、災害に関心を持ちましょう。
- 市も、全力でみなさんをサポートします。

1. 自分の住む場所の災害リスクを知る。

「岡谷市防災ガイド」に掲載されている**防災ガイド(ハザードマップ)**には、災害の危険がある場所とその危険度が示されています。以下の項目を事前に確認しましょう。

岡谷市防災ガイドを活用しよう！



自らの身は
自ら守る！

ハザードマップで
事前に確認！

- 1 自宅の立地**
 - ・土砂災害警戒区域
 - ・浸水想定区域など
 - ・周辺の崖や土手
- 2 自宅周辺の危険箇所**
 - ・川、橋、堀、側溝など
障害物や危険物
- 3 自宅の構造**
 - ・自宅内の安全な場所
- 4 複数の避難経路**
 - ・迂回路など複数の経路

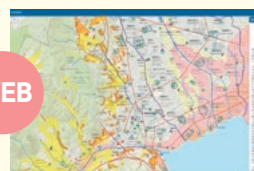
危機管理室、
各支所の窓口にて配布



ダウンロード
はこちら



くらしマップおかや



スマホやパソコンなど
WEB 上でも同じ内容を
確認できます。

こちらから▶



2. 最新の情報で身を守る。

普段から防災気象情報に気をつけ、早めに行動することが大切です。

受け取る情報

避難情報・地震情報・防災気象情報などが受け取れます。

- ☐ 防災行政無線情報
- ☐ 岡谷市LINE
- ☐ メール配信@おかや
- ☐ 防災ラジオ

防災行政無線を受信して放送します。
市役所、各支所で1,000円で販売
※将来デジタル化された場合、防災行政無線の受信ができなくなります。

スマホや
パソコンなど
で取得

市からのLINE・メール配信は、スマホなどに登録すると重要な情報が届きます。

岡谷市 LINE 公式アカウント
友だち登録方法

QRコードを読み込み
「追加」ボタンを押して登録

メール配信@おかや
メール配信登録方法

自分で見に行く情報

- ☐ 気象庁ホームページ | キキクルなどの情報
- ☐ 岡谷市ホームページ | 災害時の緊急情報
- ☐ 雨量情報 | 市内10箇所の雨量情報
- ☐ シルキーチャンネルYouTubeライブ

キキクル ▶ 

岡谷市ホームページ ▶ 

岡谷市の雨量情報 ▶ 

シルキーチャンネルYouTubeライブ ▶ 

以下の①か②の方法で登録してください。

① QRコードからサイトに接続後登録。
② 下記アドレスに空メールを送信。
返信されたメールに従い登録。
t-okaya@sg-m.jp

LINE & メール配信登録者数：17,085人
(R6.3.31現在)

可能な方は、**必ず登録**をお願いします。



3. もしも…。に備える。

災害発生時、すぐに支援物資が届くとは限りません。災害発生から3日間（72時間）は人命救助が最優先になります。初めの3日間（72時間）を自力で乗り越えられるよう準備しましょう。（推奨は1週間）

持ち出し品リスト

最低限準備しておきましょう！

出典：岡谷市防災ガイド

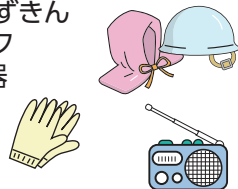
■命を守るための3品目

- ☐ 懐中電灯
- ☐ ホイッスル
- ☐ 靴（スリッパ）



■防災用品

- ☐ ヘルメット・防災ずきん
- ☐ 持ち出しリュック
- ☐ 携帯電話・充電器
- ☐ 軍手・手袋
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 予備の電池



■保存水・非常食

- ☐ 保存水
- ☐ 非常食



■衛生用品

- ☐ 携帯トイレ
- ☐ ティッシュペーパー



■着替え・防寒着

- ☐ レインコート
- ☐ 上着・防寒着
- ☐ 下着・靴下

■救急用品

- ☐ 常備薬
- ☐ ばんそうこう・包帯・傷薬
- ☐ おくすり手帳



■貴重品

- ☐ 現金（紙幣・硬貨）
- ☐ 印鑑
- ☐ 預金通帳・証券類
- ☐ マイナンバーカード
- ☐ 身分証明書（コピー可）
- ☐ 健康保険証・免許証・障害者手帳



■お年寄りがいる場合

- ☐ 介護用品
- ☐ 流動食



■女性用品

- ☐ 生理用品
- ☐ 化粧品
- ☐ ひざかけ
- ☐ 手鏡

■乳幼児がいる場合

- ☐ 粉ミルク
- ☐ 離乳食
- ☐ 哺乳瓶
- ☐ 携帯やかん・燃料
- ☐ 紙おむつ・おしりふき
- ☐ 抱っこひも
- ☐ 防寒用品
- ☐ 母子手帳

4. 避難する。

事前に警戒レベルを確認し、避難情報が発令されたら速やかに行動しましょう。

警戒レベルにかかわらず、自分で危ないと思ったら下記の「4つの避難行動」を参考に、親戚の家や知人宅などへ避難することも大切です。自らの身は自ら守りましょう。

警戒レベル	避難情報等	とるべき行動
5	災害発生 又は切迫  きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1	命の危険 直ちに安全確保
〜〜＜警戒レベル4までに必ず避難！＞〜〜		
4	災害の おそれ 高い  ひなんしじ 避難指示	危険な場所から全員避難
3	災害の おそれ あり  こうれいしゃとうひなん 高齢者等避難 ※2	危険な場所から高齢者等は避難
2	気象状況 悪化  大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	自らの避難行動を確認
1	今後 気象状況 悪化のおそれ  早期注意情報 (気象庁)	災害への心構えを高める

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではないなどの理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

避難所だけが
避難じゃない！

4つの避難行動

1

行政が指定した
避難所への避難

防災ガイドで避難所の場所
を確認しておきましょう。



2

安全な親戚・知人宅
への避難

普段から災害時に避難すること
を相談しておきましょう。



3

安全なホテル・旅館
への避難

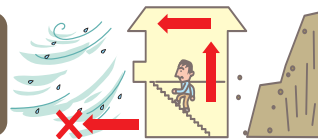
通常の宿泊料が必要です。
事前に予約・確認しましょう。



4

屋内安全確保
(垂直避難など)

大雨で足元が悪いなど避難することがかえって危険な場合、壊れにくい建物の高い階(斜面の反対側)に避難しましょう。自宅から動けない場合は斜面から離れた部屋など、より安全な場所へ避難しましょう。



登録
しよう！

避難行動要支援者登録制度

「防災情報に気づけるか心配…」 「一人では避難できない」 「親族の緊急連絡先を知らせておきたい」 など、避難行動に不安のある場合は、避難行動名簿に登録をしておくことで災害時に支援を受けやすくなります。

問合せ：社会福祉課(内線1251)

防災訓練など
で活用し有事
に備えます

災害時の安否
確認や救助活
動がスムーズ
に行えます



支援者

地域で日頃
から見守りや
声がけを
行います



避難行動要支援者

個別の避難
計画を作成して
おくことで
安心です

行政のチカラ

コラム Column

能登半島地震発生から5か月。被災地の一日も早い復旧・復興を願い、岡谷市では職員を被災地に派遣しています。派遣人数延べ31名、派遣日数延べ100日を通し、避難所支援・給水活動・廃棄物処理等の業務にあたりました。また、本年度は石川県羽咋市に、中長期にわたり職員を派遣し、公費解体や災害認定などの復旧・復興支援に従事しています。

被災地への派遣で得た経験を、岡谷市の防災力の強化につなげてまいります。

上下水道施設整備の必要性

水道課 統括主幹 太田知則

能登半島地震の起こった翌日の1月2日に日本水道協会長野県支部の要請により、被害を受けた市町村に給水支援を行うため、給水車2台と職員4名が派遣されました。岡谷市は、宝達志水町において、断水となっている地域住民の方へ給水活動を行いました。活動中は、給水車の「岡谷市」という文字を見て、わざわざ長野県からと大変感謝されました。飲み水はもちろんのこと、トイレもバケツの水を流して使用するなど、水のない生活の不便さを痛感し、岡谷市においても今後の上下水道施設整備の必要性をより感じました。



「チームながの」の一員として

企画課 主幹 田中卓雄

1月31日から2月5日までの6日間、輪島市立輪島高等学校に開設されている避難所運営を行うため、「チームながの」の一員として、職員2名が派遣されました。各種関連団体との調整や炊き出しの配膳、避難されている方へのサポートなど、円滑な避難所運営に携わりました。避難所では、避難されている方をはじめ、近隣の避難所から来られる方を支援するため、ボランティアの方や警察、病院、学校関係者、自衛隊、自治体職員など、多くの方が出入りしており、避難所運営に支障がないよう対応しました。



防災 訓練

土砂災害防災訓練を実施します

6月は「土砂災害防止月間」です。

土砂災害はいつどこで発生するかわからず、一度発生すると大きな災害につながります。これに備え、大雨による土砂災害を想定した情報伝達訓練と避難訓練を実施します。

日時 6月16日(日)
午前7時30分～10時(予定)

訓練対象地区

駒沢区(会場：駒沢公民館 ほか)

訓練参加機関など

駒沢区、岡谷市消防団(第9分団)、岡谷警察署、諏訪広域消防本部、岡谷市 など

訓練内容

災害対策本部設置訓練、避難誘導訓練、避難所の開設・運営、土のう作成、土のう積み訓練 など

※当日午前8時15分頃から防災行政無線(防災ラジオ、防災メールを含む)の放送があります。

活用 しよう!

災害対策に関する補助制度

▶住宅の耐震性を知りたい

専門の診断士が無料耐震診断を行います。

対象…以下のすべてに該当する住宅

- ・昭和56年5月31日以前に工事着手した住宅
- ・一戸建ての住宅(店舗などの併用住宅を含む)
- ・在来工法の木造住宅(賃貸、長屋、共同住宅は除く)増改築をしている場合は、他に要件あり。

▶住宅の耐震改修を考えている

耐震診断の結果、倒壊の可能性があるとして診断された住宅を耐震改修、または現地建替える場合、その費用の一部を補助します。

- ・耐震改修補助額…対象工事費の8割 ※限度額：100万円(長野県では、市町村の耐震改修の補助金に上乗せで補助を行います。最大50万円)
- ・現地建替え工事補助額…除却費の5割 ※限度額：83.8万円

▶土砂災害特別警戒区域内から岡谷市立地適正化計画の居住誘導区域内に住宅を移転する場合

その費用の一部を補助します。

※各補助制度を受けたい人は工事契約前にご相談ください。

詳しくは
こちらから



問合せ：危機管理室 内線1591

問合せ：都市計画課(内線1374)

〈特集2〉

川岸学園構想

ってどんなもの？

岡谷市の教育に関する大きなプロジェクトとして、たびたび話題にのぼる「川岸学園構想」とはどんなものなのでしょう。

どうして川岸なの？ 認定こども園は聞いたことがあるけれど、保育園はどう関わるの？ など、市民のみなさんの疑問を解消できるよう、2か月にわたり特集していきます。

川岸学園構想とは

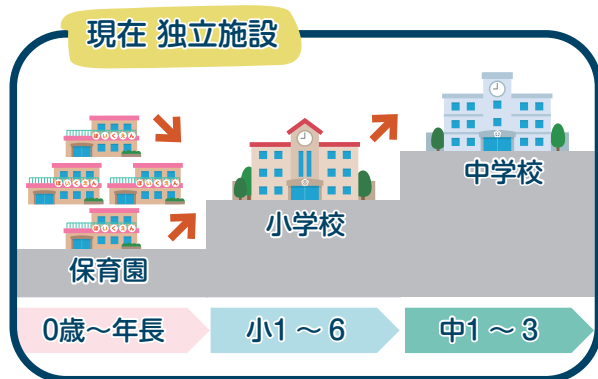
少子化が進む社会に適応した「魅力と活力ある学校づくり」を推進するため、川岸小学校の施設改修に合わせ、小学校校舎と隣接する岡谷西部中学校の校舎とを接続し、小中一貫教育を行う「義務教育学校」への移行をはかります。

それと同時に周辺の4つの公立保育園を統合した「幼保連携型認定こども園」を校地内に併設し、異年齢の子どもたちが切れ目なくつながる「新たな学び舎」をめざす構想です。

川岸学園構想による施設整備イメージ



川岸学園構想がめざす環境





川岸学園構想策定までの経過

人口減少社会と本格的な少子化の到来

2020年から見て、25年後の2045年には
現在の子どもたち(0～14歳)の人口が約40%減少する見込み。

※国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口より



小学校・中学校

1

学校施設の老朽化対策

市内小中学校の多くが築後40年が経過し
施設改修には多額の費用がかかる。

↓
今後は学校施設の長寿命化を基本とする改修を
推進し、少子化を見据えた校舎の適正規模に
よる整備が必要。

↓
改修費が単年度で大きくならないよう、
過去の改修履歴や劣化度等から優先順位を決定。

2

次期改修校を「川岸小学校」に決定

築年数や劣化度調査の結果を踏まえ、
次の改修校を「川岸小学校」に決定。

3

小中一貫校「義務教育学校」への移行

川岸地区は市内で唯一、小中学校が併設して
いるため、校舎間をつなぎ、
小中一貫した教育を行う
「義務教育学校」への移行をめざす。

保育園

1

保育施設の老朽化対策

施設の老朽化が著しく、施設の利用や
運営状況などの視点から今回の
整備対象地区は「川岸地区(西部地区)」とし、
保育園の集約化による再編が望ましい
と判断。

2

整備園の集約場所は 「川岸小学校の校地内」

整備する園では幼児教育の充実や小学校への円滑
な接続など、新たな付加価値を提供するため、
整備園は「川岸小学校の校地内」に併設。

3

市内初の 「公立幼保連携型認定こども園」を整備

保護者の多様な就労形態への対応や、
幼児期から義務教育期への一貫した
学びの連続性の確保と円滑な接続を図るため、
「公立の幼保連携型認定こども園」を設置。

幼保小中がつながる
新たな学び舎の創出

川岸学園構想

4つの基本方針

未来へとつなぐ魅力とやさしさある学校施設の整備
学校間をつなぐ小中一貫教育(義務教育学校)への移行
幼児期からのつながりある学び舎の創出
地域に支えられ、地域とつながる新コミュニティ・スクールの導入

「義務教育学校」「認定こども園」に
ついては、次月7月号にて詳しくお伝えします！

問合せ 川岸学園整備室 内線1234

岡谷市では、幼保小中の接続期の交流・連携を大切にしてい
ます。今までの取り組みを基盤に、さらにこれを充実させ
るために、各施設をつなぎ、異年齢の子どもたちが同じ空間
で過ごせる新たな環境を整えます。